NEWSLETTER

No.19 (2014)

生涯学習レター

全国生涯学習市町村協議会

全国生涯学習市町村協議会
ホームページアドレス http://www.gakushu.jp

事務局
〒846-8501
佐賀県多久市北多久町大字小侍7番地1
多久市役所　総務課内
TEL 0952-75-2115
FAX 0952-75-2110

日本版・生涯学習の使命に立つ

全国生涯学習市町村協議会会長
佐賀県多久市長
横尾俊彦

生涯学習は「ライフロング・ラーニング（またはスタディ）」。つまり人生の始まりから天寿全うまでの学びを意味すると理解している。佐藤一斎の「老にして学べば死して朽ちず」から思えば、天命を終えてもなお学びは残ると信じたい。そもそも教育は古今東西、最重要といわれ、個人の人生にも欠かせない。

そこで、過去と比べて気になるのが日本人の古典力である。低下している。

かつての寺子屋・藩校では初学の者は『孝経』『論語』『小学』『大学』などを読んだ。最初は先輩の素読を傍で聞き、聴くままに繰り返す学びの型から始めた。そして歳月とともに古典の基本書を暗誦できるほどに学んでいったのだ。

現在はどうか。『論語』以外は知られていないようだ。読み親しんだ経験もほとんどないであろう。実に勿体ない。

これら書物は各々の内容もあるが、一貫して導く理念があり、それが若人の向上心や報恩心を育んできたと感じる。

『孝経』は「身体髪膚これを父母に受く」で始まる。そして孝の道を説く。具体的な行いとして親を敬うこと、感謝する心で応ずることも大切であるが、さらに進んで、ほかの人々から「あの人のおかげで助かった」「彼（女）がいてくれて良かった」等、世の評価を人づてに親が聞ける喜びを為すことが大事と説く。その歓喜はひとしおである。世に役立つ人となり、世に必要な人材として生きることが貴いという教えが随所に響く。

その精神は『小学』『大学』に通じていく。『大学』は、天与の徳性を発揮して世に役立つ人となり、大いに尽くすことが肝心という精神に立った内容がある。日々自己練磨することの大切さを故事も交えて説かれている。

『論語』はあたかも西洋の聖書「箴言」のような短文でありながらも大切な教えの花束ともいえる内容であることは多くの人がご存知のとおりである。

そのような書物に親しみ学び、自分自身をよく見つめ、自分らしい人生を模索し、日々努力する。それを先人たちは日常として熟知していたのだ。

今の日本に不足しているこの人間観を補い、人間力を高めることこそが生涯学習の重要な使命のひとつであろう。

全国の志ある皆様と共に世直し・時代創造への尽力の一端を担って参りたい。

多久聖廟（孔子廟）では、春（４月18日）と秋（10月第４日曜日）に釈菜（せきさい）の祭典が行われます。

全国生涯学習市町村協議会共催事業

生涯学習まちづくりの先進事例を情報交換

「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」開催される

平成26年
3月1日(土)～2日(日)

本協議会共催事業として、栃木県佐野市において、生涯学習によるまちづくりに取り組まれている自治体や関係者が一堂に会し、実践事例の徹底した情報交換により交流を深め、参加者相互の活性化と、さらなる生涯学習によるまちづくりの発展に寄与することを目的に、「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」が継続開催され、2日間で延べ3300名を超える昨年以上の参加者のもと、盛大に開催されました。

▲開会式典

期日　平成26年3月1日(土)～2日(日)
会場　佐野市文化会館　周辺全域
主催　大会実行委員会・佐野市・佐野市教育委員会
共催　全国生涯学習市町村協議会・全国生涯学習まちづくり協会
後援　文部科学省・栃木県教育委員会・(財)地域活性化センター
協力　聖徳大学生涯学習研究所・(社)スコーレ家庭教育振興協会・(財)日本余暇文化研究会・TOSS　ほか

▼基調対談（1日）

「これからの社会教育とまちづくりのあり方について」

対談者
文部科学省生涯学習政策局社会教育課長
谷合俊一氏
全国生涯学習まちづくり協会副理事長
清水英男氏

開会式典に続き、大会のオープニング行事として行われた基調対談では、我が国の社会教育を促進するための基本的な考え方と行政の在り方や、これからの生涯学習とまちづくりの関係、全国学びとまちづくりフォーラムin佐野の果たす意義などについて、2人の対談者が熱く語り合いました。

市民の学習や地域活動などを支援する目的は、充実した人生と地域社会の活性化の期待にある。市民が必要に応じて学習活動を盛んに行い、その成果を生かして幸せな人生を生きることと、国家と社会の形成者であることを自覚し責任を果たすことによって、地域社会が元気になる。谷合氏は、最後に活動の展開について「まずは住民のニーズを把握して関心のある人を主催者側に入れてしまい、生涯学習の輪をつくるのがいい」と、対談を締めくくりました。

小ホールは立ち見ができるほど多くの観客が集まり、熱い視線と拍手が送られていました。

▲基調対談

▼分科会（1日・2日）

本年度は、2日間にわたり各4分科会、8つのテーマによる分科会が各会場で行われ、各テーマに沿った活動を実践されている自治体や関係者が全国から集まり、事例発表を行うとともに、参加者との質疑応答や意見交換等が行われました。各分科会のテーマは、次のとおりです。

○第1分科会
「父親力がつくる地域の学び舎」
～子ども・子育て支援・青少年・学社連携①～

○第2分科会
「学習中毒からの脱却ーわが手でまちづくりー」
～創年・成人教育・市民活動～

○第3分科会
「地域と一緒に輝く場づくり
0から1への挑戦！」
～地域で活躍する子ども・若者たち～

▲分科会会場

○第4分科会
「地域を元気にする女性たち」
～女性・女子力～

○第5分科会
「子どもがつなぐ学校・家庭・地域
そしてまちづくり」
～子ども・子育て支援・青少年・学社連携②～

○第6分科会
「次世代へつなぐ郷土づくり」
～歴史・観光・環境～

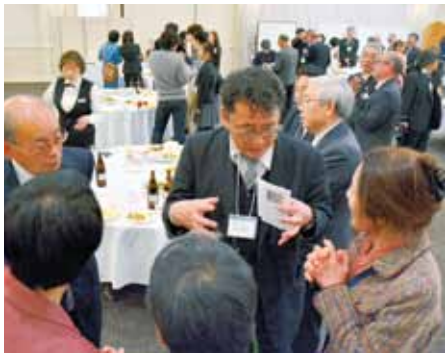
○第7分科会
「ひとづくりでまちの絆を」
～コミュニティ・自治会・自主防犯・自主防災～

○第8分科会
「空き資源は地域の宝
―活用から見えるまちの未来―」
～空き活用・まちなか活性化～

▲地域で活躍する子どもたちの活動事例発表

▼交流会（1日）

初日の夜は、交流会が開催され、参加者の地元特産品や展示品等が会場中に並べられ、いたるところで全国の参加者同士で活発な情報交換が行われました。


▲交流会での情報交換

交流会であいさつする▶
前田副会長（霧島市長）

▼全体会・基調提言（2日）

2日目の分科会終了後には全体会・基調提言が行われ、分科会レポーターによる各分科会での討議内容の報告と、生涯学習まちづくりの発展に向けて、参加者への生涯学習、地域活動への積極的な参加を勧める提言があり、2日間にわたる大会を締めくくりました。

【分科会レポーター】
○第1分科会・第5分科会
埼玉県代表、朝霞市立朝霞第三小学校 校長
加藤 美幸 氏

○第2分科会・第6分科会
千葉県代表、聖徳大学文学部 教授
西村 美東士 氏

○第3分科会・第7分科会
群馬県代表・邑楽町教育委員会社会教育主事
栗原 薫 氏

○第4分科会・第8分科会
佐野市代表、まちづくり支援センター代表理事
為国 孝敏 氏

【司会・基調提言者】
大会実行委員会顧問・聖徳大学生涯学習研究所長
福留 強 氏

全体会風景と
福留先生による
基調提言

▼楽習講師フェア ほか（両日）

両日にわたって、「楽習講師フェア」として佐野市の楽習講師（佐野市にボランティア講師として登録している個人や団体）によるステージ発表や展示・体験コーナーが設けられたほか、絵画や彫刻など生涯学習の成果発表として「静のアート展」が同時開催され、お年寄りから子どもまで幅広い年代の方が楽しんで参加されました。

また、ゆるキャラグランプリで活躍した「さのまる」を中心に、参加団体同士でのご当地キャラクターを通じての交流も行われ、会場を和ませていました。

▲ゆるキャラ集合

社会情勢は日々めまぐるしい勢いで変化しており、その変化に対応するためには、地域を支える多様な人材の育成が必要であるとともに、一人ひとりの持つ能力や可能性を伸ばしていくことも重要であり、地域の活性化に向けて生涯学習の意義はますます大きくなっています。

本協議会では今後も、佐野市を会場に東日本での定着をめざし、全国各地の先進的な取組を学び交流を図ることができるこのフォーラムを引き続き共催していきたいと考えています。

平成25年度

全国生涯学習市町村協議会 研修会等補助団体 活動実績の紹介

千葉県酒々井町

輝く創年とコミュニティ・フォーラム概要報告

平成25年12月8日(日)

―住民主体で開催・運営―

酒々井まちづくり研究所のオープニング・イベントとして、全国の創年とまちづくりの事例などを中心に学ぶ場、そして今後の研究所の構想や活動のあり方を探る機会、交流の場として「輝く創年とコミュニティ・フォーラム」を12月8日に酒々井町中央公民館及びプリミエール酒々井を会場に開催しました。

まちづくり指導者を養成する青樹堂師範塾の塾生及び住民活動団体交流会運営委員の方が「酒々井まちづくり研究所オープニング・フォーラム実行委員会」委員として開催準備を重ね、当日の分科会も運営しました。

午前中の分科会は、「人と人とを結びつける地域活動の実践」を主題とし、市民大学と公民館の関わり、創年と子ども、観光と観光教育、女子力と仕事づくりの4つのテーマを4会場で開催し、用意した資料が足りなくなるほど盛況で、遠くは山形県天童市からもおいでいただき約220人が参加しました。

▲午前中の分科会（酒々井町中央公民館）

また、午後からは、「こちら酒々井まちづくり研究所～住民がまちづくりにかかわるとき～」と題して、酒々井まちづくり研究所福留強所長から基調講演があり、「まちづくり、生涯学習からのスタート」と題して行われたシンポジウムは、パネリストに文部科学省生涯学習政策局社会教育課長坪田知広氏、俳優・歌手の三ツ木清隆氏、スコーレ家庭教育振興協会会長永池榮吉氏、㈱図書館流通センター代表取締役会長谷一文子氏と小坂泰久町長、そして、コーディネーターは福留強所長により行われ、各氏からまちづくりの関わりの話や提言等がありました。参加者は約230人でした。

▲午後の基調講演（プリミエール酒々井）

また、交流会については、分科会及びシンポジウムの講師も参加し、情報交換・名刺交換が行われ、酒々井町の食材も味わい、約110人が参加され楽しい交流会となりました。

※創年：「新たな人生に挑戦し、生涯現役を目指す人々の呼称」としています。

福岡県筑後市

創年コミュニティ研究大会・筑後大会 生涯学習まちづくり推進20周年のつどい

平成26年2月22日(土)

この大会は、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる人々（中高年＝「創年」）が地域活性化のために活動する「創年運動」の推進と地域活動のあり方を考えるとともに、広くコミュニティのあり方などを提唱し、「生涯学習のまちづくり推進20周年のつどい」を開催しました。なお、本大会は全国生涯学習まちづくり協会が推奨する「創年運動」のひとつとして位置づけられ、西日本のモデル事業として開催されたものです。

期日　平成26年2月22日（土）
会場　サンコア・中央公民館

内容

○オープニング交流会「日本人は魚を食え」

○基調講演

「創年運動とコミュニティ再生への取り組み」

聖徳大学名誉教授　生涯学習研究所長

福留　強　氏

○事例発表

テーマ「コミュニティを創る取り組み」

・「映画を創った天草の市民たち」

映画「女たちの都～ワッゲンオッゲン～」

企画者　**福田智穂　氏**

熊本県天草市牛深。かつては豊富な漁獲量を誇り、豪華絢爛な花街が栄えた地。しかし今では漁獲量が減り、仕事も減り、さびれた衰退都市に…。そんな天草を舞台に、見終わった後に「よし、私もやらなきゃ！」と元気になれる映画『女たちの都～ワッゲンオッゲン～』を企画する。

▲会場周辺のにぎわい（筑後市サンコア）

・「市民活動が根付いた経済効果」

霧島市隼人町／南風の会代表／嘉例川駅復活の仕掛け人　**山内庸子　氏**

無人駅「嘉例川駅」に列車を停車させ、地域の人々に駅弁を作らせ、駅弁日本一となる。それら地域づくりの仕掛け人として積極的に活動を展開する。いま豪華列車「ななつ星in九州」の停車を試んでいる。

・「日本人は魚を食え」

日本人は魚を食えプロジェクトリーダー（大分県佐伯市）　**土井克也　氏**

平成11年ポートラインサービスを起こし社長となる。佐伯市は漁港として有名、しかし日本人の魚離れ、地域産業の衰退を留めんと立ち上がる。地域の活性化のために全国を駆け回っている熱血漢である。

○「事例研究から考える」

3つの発表の討論

福岡県教育委員会南筑後教育事務所主任社会教育主事の司会により、3名の事例発表について、全国生涯学習市町村協議会理事、開催地首長などの意見を交えて熱心な討論が行われた。

○当日のアンケートの中から

・生涯学習ならびに地域コミュニティ活動の創造は創年の世代が自然体で取り組むことが、まずもって大切なことだと思いました。

・「コミュニティづくり」という形にとらわれず、まずはネットワークづくりが大切かなと思いました。

・年金＋5万円の収入を目指して生涯学習に取り組むという創年運動の事例を見習いたいと思います。

岩手県軽米町

学校統合による「空き」活用と地域づくり研修会並びに教育振興運動集約集会

平成26年2月7日(金)

▲地域づくり研修会

軽米町では、学区ごとに学校を拠点として地域の教育課題に取り組む運動を推進しています。平成26年に、小学校が4校から3校に、中学校が4校から1校に統合し、地域活動の推進と、その閉校校舎の「空き」活用が課題となっています。

研修会では、事例や情報を交換し、研究することで有効活用と地域づくり方策について学ぶことができました。また、住民主体での「空き」活用と地域づくりの重要性を、住民が確認することができました。

期日　平成26年2月7日

会場　軽米町農村環境改善センター

内容

○基調提言「空き活用と地域づくり」

講師　聖徳大学生涯学習研究所長

代表世話人　**福留　強　氏**

○事例研究「学校統合による空き活用と地域づくり」

コーディネーター

岩手県教育事務所　主任社会教育主事

小室好司　氏

総括アドバイザー　**福留　強　氏**

パネラー

軽米小学校実践区代表

中里将幸　氏（岩手県）

普代村教育委員会社会教育主事

森田　陽　氏（岩手県）

四季の学校・谷口がっこそば理事長

庄司博司　氏（山形県）

わっせ交流センター

鳩　恵子　氏（青森県）

生涯学習市町村協議会
オリンピックを契機にさらに飛躍を

世話人
聖徳大学名誉教授　福留　強

人口減の話題を多く耳にするようになりました。少子高齢社会の到来で、当然のこととはいえ、衝撃的なニュースも流れています。

地域の活性化は、これまで、象徴的に「人口増加」で語られ、評価されることが多かったようです。これからの人口減日本では、地域の活性化の望みは薄いことになります。しかし、これらの地域活性化のポイントは、人口増加に期待することではなくて、「住民一人ひとりの活性化、元気さ」にあるのではないかと思われます。つまり一人ひとりが、目標を持って生きがいを持って地域に生活している状況こそが本来の活性化といえるのではないでしょうか。だからこそ、生涯学習まちづくりを追求しているまちが多いということなのでしょう。

自治体にとって、住民の生きがいづくりをすすめ、活動の場を創るということは、生涯学習施策の重要なポイントになっており、密度の濃い生涯学習都市が目指していることといえるでしょう。だからこそ社会教育の重要性が叫ばれているのですが、現実には、社会教育の活性化が感じられない気もします。

しかし、一方で、観光立国や、オリンピック招致決定など、まちづくり、市民活動の発展にも大きなチャンスが到来してきました。おもてなし国家としては、オリンピックを契機に大いに世界に売り出したいものです。オリンピックを契機に訪日観光客３０００万人を目指す時代です。これは東京だけの話ではなく、全国に波及するオリンピックになると思われます。日本中が、地域の特色を創りだし魅力ある地域を創るということが、これからのまちづくりの課題の一つとなると思います。そのためには市民との協働の取り組みが成果をあげることはいうまでもありません。生涯学習市町村協議会の活動の広がりは、これらの課題にも大きな影響を与えると思われます。そのためにも本協議会の連携、協力、共同研究などを、より積極的に進めたいものです。

生涯学習社会の実現と土曜日の教育活動の推進について

文部科学省
生涯学習政策局長
清木孝悦

日本の将来を担う子供たちは国の一番の宝であり、教育は国の根幹を形づくる最重要政策です。

そのため、文部科学省では改正教育基本法の理念のもと、昨年６月に閣議決定された第二期教育振興基本計画に基づき、世界トップレベルの学力と規範意識を備えた人材育成の取組を進めています。また、２０２０年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を受け、それに向けて我が国の活力を発揮するため、文部科学行政全般にわたり様々な施策を進めていくこととしています。

この第二期教育振興基本計画には、グローバル化や少子化・高齢化など社会の急激な変化への対応や我が国が直面する危機の回避、東日本大震災から得られた教訓等を踏まえ、今後目指すべき新たな社会の方向性として、「知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会の実現」が掲げられています。このような生涯学習社会の構築を「旗印」として、現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進、絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習環境・協働体制の整備の推進、社会教育推進体制の強化をはじめ様々な施策を進めて行く必要があります。

さて、文部科学省では、土曜日において、子供たちに学校における授業や地域における多様な学習、体験活動の機会など、これまで以上に豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、本年度から「土曜日の教育活動推進プラン」をスタートしました。具体的には、質の高い土曜授業の実施のため、効果的なカリキュラム開発や特別非常勤講師・外部人材の活用を支援するとともに、土曜日が休みの社会人など、地域の人材を活用して、土曜日ならではの生きた学習プログラムを充実させるための支援を行い、学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら、子供たちの土曜日の教育環境の一層の充実を図りたいと考えています。全国生涯学習市町村協議会会員の皆様にも、是非ともこれらの取組に御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

厳しさを増す社会環境の中で、持続可能で活力ある社会を維持し、一人一人の豊かな人生を実現するため、文部科学省としても国・地方の連携・協働という視点に留意し、全国生涯学習市町村協議会会員の皆様とも連携しつつ、生涯学習社会の実現に向けた取組を進めていきたいと考えております。

平成26年度

会員市町村

北海道

1 稚内市
2 士別市
3 大空町
4 上士幌町
5 本別町
6 浦河町

東北

【青森県】
7 階上町
【岩手県】
8 軽米町
9 葛巻町
10 金ヶ崎町
【秋田県】
11 秋田市
【宮城県】
12 七ヶ浜町
【山形県】
13 天童市
14 朝日町
【福島県】
15 富岡町
16 三島町
17 昭和村
18 須賀川市

関東

【栃木県】
19 大田原市
20 矢板市
21 さくら市
22 宇都宮市
23 栃木市
24 佐野市
【群馬県】
25 高崎市
【埼玉県】
26 所沢市
27 春日部市
28 松伏町
29 八潮市
30 羽生市
【茨城県】
31 阿見町
【千葉県】
32 四街道市
33 酒々井町

中部

【長野県】
34 東御市
35 茅野市
36 箕輪町
37 泰阜村
【山梨県】
38 韮崎市
【富山県】
39 上市町
40 富山市
【石川県】
41 内灘町
42 金沢市
【福井県】
43 大野市
【岐阜県】
44 高山市
45 白川町
46 七宗町
47 岐阜市
48 恵那市
【静岡県】
49 御殿場市
50 掛川市
【愛知県】
51 知立市
52 安城市
【三重県】
53 伊勢市
54 熊野市

近畿

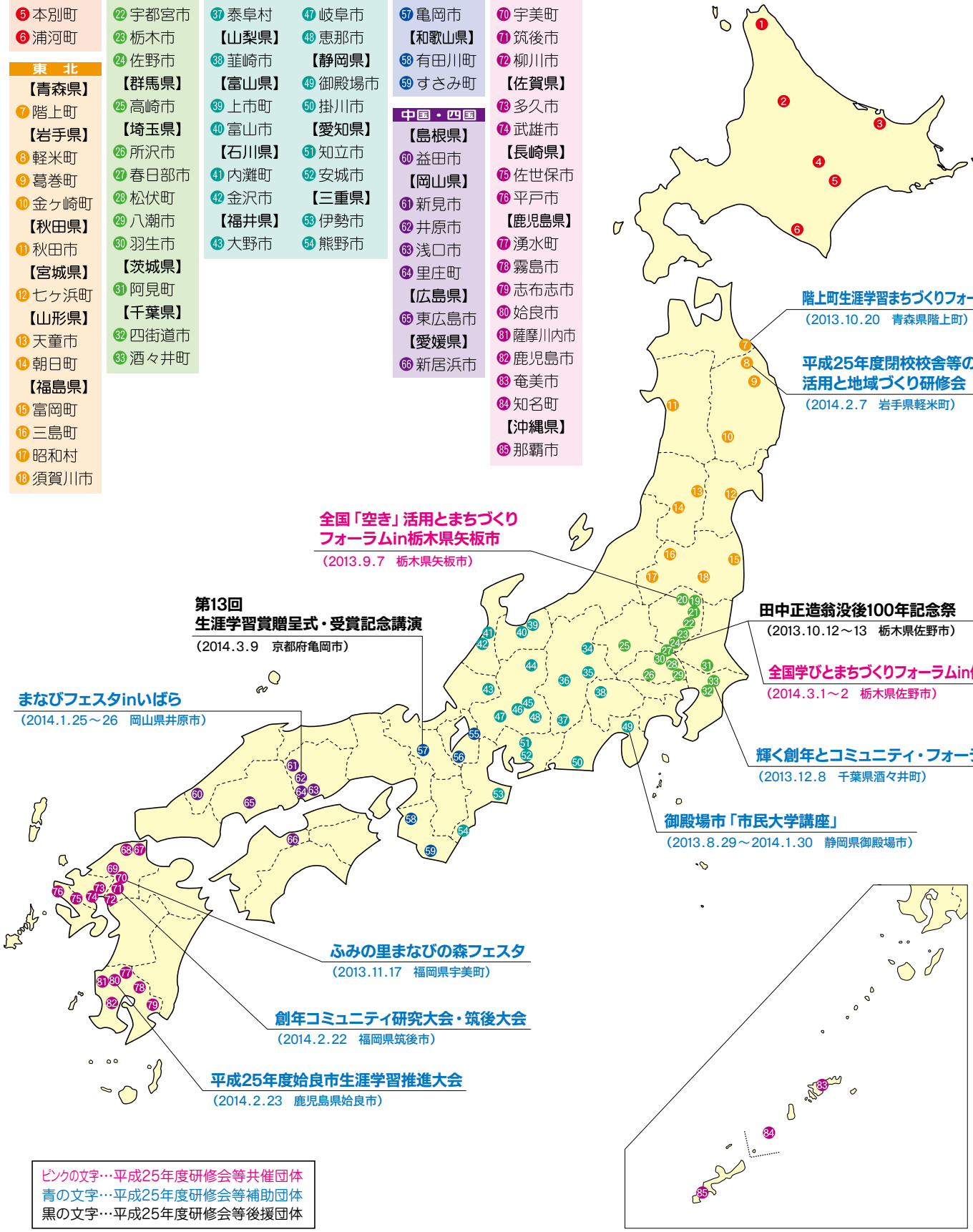
【滋賀県】
55 米原市
56 大津市
【京都府】
57 亀岡市
【和歌山県】
58 有田川町
59 すさみ町

中国・四国

【島根県】
60 益田市
【岡山県】
61 新見市
62 井原市
63 浅口市
64 里庄町
【広島県】
65 東広島市
【愛媛県】
66 新居浜市

九州・沖縄

【福岡県】
67 芦屋町
68 岡垣町
69 須恵町
70 宇美町
71 筑後市
72 柳川市
【佐賀県】
73 多久市
74 武雄市
【長崎県】
75 佐世保市
76 平戸市
【鹿児島県】
77 湧水町
78 霧島市
79 志布志市
80 姶良市
81 薩摩川内市
82 鹿児島市
83 奄美市
84 知名町
【沖縄県】
85 那覇市



ピンクの文字…平成25年度研修会等共催団体
青の文字…平成25年度研修会等補助団体
黒の文字…平成25年度研修会等後援団体

募集

平成26年度

補助事業・研修会実施市町村の募集について

協議会では、毎年会員市町村において開催される生涯学習の推進に係る研修会等を援助する目的で、「全国生涯学習市町村協議会研修会等補助金交付要綱」に基づき、運営補助金の交付を受ける市町村を募集しています。

平成25年度につきましては、8つの会員市町村にご応募いただき、補助金制度をご利用いただきました。実施各市町村のそれぞれの取り組み状況につきましては、その概要の一部を掲載させていただきました。

協議会といたしましては、この補助金制度を会員市町村にさらに有効にご活用していただきたいと考え、平成26年度におきましても、7月初旬の総会後に募集を開始し、その後決定させていただく予定としております。

つきましては、補助金交付を希望される会員市町村におきましては、協議会ホームページより募集要項をダウンロードしていただき、事務局まで申請していただくようお願いいたします。

なお、申し込み多数の場合などにつきましては、充分に検討させていただき選考・決定をさせていただくことになりますので、あらかじめご承知おきください。ご不明な点などございましたら、事務局までお問い合わせください。

ぜひ多くの会員市町村の申請をお待ちしております。

紹介

全国生涯学習市町村協議会のホームページ

アドレス
http://www.gakushu.jp

全国生涯学習市町村協議会では、ホームページを作成しています。

現在、このホームページには、「加盟市町村名簿」「会則」「補助金要綱」のほか、「各市町村の状況」「お知らせ」等の記事を掲載しております。

当協議会のネットワークを通して、全国各地での取り組み状況や日ごろのご担当者の皆さんが苦慮されていることも含め、様々な情報を集め、会員市町村の皆様がよりよいまちづくりに貢献できるよう、ご活用いただけたら幸いと思います。

また、「ぜひ、この情報を掲載して欲しい！」とのご要望がありましたら、事務局までご連絡ください。このＰＲが、明日への発信・発展につながっていくかも知れません。

編集室から

昨年度に、北海道本別町から事務局を引き継ぎ、全国生涯学習市町村協議会の運営に携わって、初めての生涯学習レターの発行になりました。

平成25年度に取り組まれた補助事業や共催・後援事業を通じて、全国の会員市町村の皆様とお話する機会をいただき、すばらしい取り組みを拝見させていただきました。この経験は、普段では味わえないことだと痛感し、この出会いを大切にしていきたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。（I）